

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：21102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530670

研究課題名(和文)医療通訳の現状と課題－在日外国人の使用言語に係わる医療コミュニケーションの研究

研究課題名(英文)Present Situation and Problems Associated with Medical Interpreters: A Study of Medical Communication of Foreign Residents in Japan

研究代表者

川内 規会 (Kawauchi, Kie)

青森県立保健大学・健康科学部・講師

研究者番号：30315535

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、医療通訳に焦点を当てながら外国人患者と医療従事者が抱えているコミュニケーションの問題を分析し、医療通訳の今後の可能性を考察した。在日外国人対象の調査では、外国人患者の医療現場における言語上の不安要因が明らかになり、さらに外国人患者は病院内の説明を十分に理解していないという結果から、「情報保障」の問題が重要視された。医療通訳の調査では、通訳者の活躍が期待されているが、医療通訳派遣システムが形作られている大都市の課題と外国人が少ない地域でかかえる課題には、将来的な改善点が大きく異なることから、今後、地域社会のニーズに合わせた段階的な医療通訳の対応が必要であると考えられる。

研究成果の概要(英文)： In this study, a survey was conducted to identify communication problems occurring between foreign residents in Japan and medical staff. The results were used to discuss the future prospects of medical interpreters. Responses from the survey revealed that foreign patient anxiety primarily resulted from not fully understanding the explanation given to them in a medical setting. This finding highlights the need to ensure foreign patients are provided with reliable, accurate information.

Results from this study showed that both Japanese medical staff and foreign residents have an expectation that medical interpreters should be available. Future improvements to the utilization of medical interpreters in large urban areas, which already have a medical interpreter dispatch system in place, are quite different from regional areas where there are fewer foreign residents. In regional areas, it will be necessary to provide and improve support according to their growing needs.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：医療通訳 在日外国人 医療コミュニケーション

## 1. 研究開始当初の背景

(1)医療通訳に関する問題は、以下にあげられる。1. 医療や宗教などの文化的背景の知識や、医学用語、医療現場の知識が必要であり責任が大きいにもかかわらず「医療通訳」の国家資格制度はなく、身分保障がない。2. 金銭的問題としては、病院に通訳を派遣しても、患者がボランティア通訳者の交通費を負担する程度で報償費がなかったり、NPOによる派遣システムが整っているところでも、大半はボランティアが主流で通訳者への報償費は低額であるなど、費用に関する問題がある。3. 各地で医療通訳実践講座などが開かれている場合が多いが、その内容やレベルはバラバラであり、医療通訳者として国内で統一された質の保証はない、など問題が多い。

(2) 日本在住の外国人の保健医療に関する課題としては、「保険・経済的問題」「保健医療システムの違い」「異文化理解」そして「言葉・コミュニケーションの問題」があげられているが、保健医療問題の中でも言葉の問題は大きい。1990年代に急増したニューカマーでは、約7割程度が日本語でのコミュニケーションが十分にできないと推計されている。これは、医療で使用される日本語は、専門的医療用語が多い上に表現が難しいため、医療現場の専門職である医師・看護師・検査技師・薬剤師などとコミュニケーションをとることは、日常会話と異なり難しく、さらに母国と異なる医療システムにおける受診であることから困難がつきまとうとされている。

## 2. 研究の目的

(1)在日外国人と医療従事者の言語的関わりを調べ、医療現場のコミュニケーションの現

状をよりスムーズにするために、外国人が抱えている医療現場での課題に使用言語がどのようにかかわっているかを調査する。また、これらの言語上の問題点を直接的に解決するために、医療通訳の現状と課題を把握することで、今後の医療通訳とそのシステムのあり方を考察する。

言語的な情報弱者と言われる外国人へ情報保障が必要であり、安心して医療行為が受けられる環境を目指すとともに、医療従事者にとっても医療行為がスムーズに行われる環境であることを目指し、医療通訳のニーズと将来的展望を示すことを本調査の目的とする。

## 3. 研究の方法

(1)2011年にZ県在住の外国人を対象に無記名自記式質問紙による調査を実施した。国籍、日本語レベル、対象年齢にこだわらず、Z県在住である事のみを対象条件とした。調査内容は、入院・通院状況、診療科別理解度、医療現場での使用言語と医療用語の理解度、医療従事者との言語上のコミュニケーション不安や問題点、通訳の情報と活用の現状などである。調査結果は統計処理し、記述式回答はデータ化しカテゴリー分けした。倫理的配慮として、調査用紙は無記名であり個人が特定されない。また、調査目的は文面にて明らかにし、回答を持って同意を得たものとした。

(2) 医療通訳の現状と課題を把握することを目的に、2011年に、国内5都市で医療通訳者を対象に半構造化面接による聞き取り調査を実施した。また、2013年にはZ県でボランティア通訳者を対象に、医療通訳養成研修を行い、医療現場での壁を把握するとともに、研修前と研修後の意識の変化を調べ、医療通訳

養成研修の効果と課題、実際の通訳者の医療現場での不安や苦手意識を分析した。調査方法は、質問紙調査と聞き取り調査を行い、調査においては、本研究の趣旨を伝え、個人が特定されたり、回答しないことで不利益が生じることがないことを明らかにしたうえで、その趣旨に賛同した人に協力依頼をした。

#### 4. 研究成果

(1) Z県在住の外国人対象の調査は、有効回答数は206件（有効回答率は73.6%）、対象者の基本属性は男性95人、女性111人、年齢構成は20代が157人(75.1%)と一番多かった。国籍は中国が98人(47.6%)と群を抜いて多く、次いで韓国・朝鮮が21人(10.2%)、マレーシア、アメリカ、ベトナムと続く。

日本語使用の場合の医療用語と理解度の関係では、「注射」「入院」などなじみのある初級単語の理解度はどのレベルでも高かったが、上級の単語とされている「医療保険」は上級のみならず、中級者でも6割以上が理解できており、初級の中にも理解できている人がいた。一方、医療現場では基本的な用語であるが、「点滴」「処方箋」といった単語は、どのレベルも理解度が低く、日本語能力の上級者でも実際は半数程度しか理解していなかった。医療用語は、日常使用している用語のレベルや理解度とは異なることが分かった。また、日本語の説明が理解できた患者の診療別理解度では、理解されていた診療科が「皮膚科」で、理解が難しかった診療科は「外科」でありその特徴があらわれたことなどから、通訳が必要な場面も診療科によって異なることが理解できる。さらに、医師・看護師が分からない用語を使用したときの患者の対応では、65.5%の外国人が医療現場ではわからないま

ま帰っていたことが明らかになり、情報保障の観点から外国人患者に対しての今後の課題が見えてきた。

医療通訳については、情報を聞いたことがない人が81.1%と多数でありZ県の特徴が表れていた、医療通訳の情報が手に入った時の対応では、依頼したいが32.5%、依頼したいが条件によるが51.9%であり、その条件は多い順に「費用がかかりそうだから」「依頼するのに時間がかかりそうだから」「依頼するのに手続きが難しそうだから」と続いた。これらの問題が解決されるなら、医療通訳を依頼したいと考えている人は84.4%に上る。医療通訳者が医師の説明につく場合の心理的不安に関する問いでは80.7%の外国人は、医療通訳者がサポートしてくれることで不安感が軽減されると考えていた。言語のサポートに関しては、通訳者に対する期待は大きいものの、医療従事者からも外国人患者からも、「患者自身が日本語の分かる知人を連れて来るもの」と考えており、情報保障の問題が浮き彫りになった。さらに日本における医療通訳の存在を知らない在日外国人が8割以上という結果から、Z県は在住外国人が少ないため、医療通訳を養成する機関もなく、通訳の存在が身近ではないこともあり、情報が不足していることが考えられた。

(2)通訳者対象の調査では、国内5都市の現任医療通訳者に面接を行い、医療通訳の現状と問題点をまとめた。また、Z県内のボランティア通訳者対象の調査では、通訳者が医療現場で通訳をする時の不安と壁を把握することを目的に、質問紙調査と面接調査を行った。

前者の調査は、東京、神奈川、京都、大阪、北海道を対象とし、現役で活躍している医療

通訳者 8 名から調査協力を得た。これらの地域は、外国人登録者数が多く、外国人集住地域を持つことや、観光客、留学生などの短期滞在者が多いことから、独自に医療通訳派遣システムを作り出し、先進的な取り組みをしている機関が存在している。NPO 法人の団体や、地方自治体を中心に活発に取り組んでいるところで、医療通訳派遣の協力体制ができている。そこであげられた問題点は大きく 7 つに分けられた。1. 医療通訳者の技術的な質の保証の問題、2. 養成講座等の通訳レベルの確保の問題、3. 謝金、報償費などの報酬の問題、4. 公的な資格制度の問題、5. リスクと責任の問題、6. 医療通訳が理解されていないことから来る扱いの悪さの問題、7. 中立性の問題などである。医療通訳の存在を知っている外国人患者や医療従事者のもとで、活躍していることから、多くの専門的な課題が出てきたといえる。

次に Z 県の調査では、「医療通訳養成研修」を初めて実施したことから、医療通訳技術の実践の他に、現状の通訳業務の実態、医療現場で経験した通訳が困難な事例、医療現場の通訳の不安要因など県内の通訳事情などをテーマとして扱った。その結果、Z 県のボランティア通訳者は、医療という特殊な場面では、必要とする専門の実践訓練や医療用語の知識がないことで不安が大きく、引き受けることを拒むという姿が如実に表れた。基本的な語学力に自信があっても、ノートテイキングや逐次通訳のような技術的な力には自信がないという傾向も表れ、さらに医療の現場を知らないという情報不足が不安の大きな原因になっていた。また、医療通訳養成研修のような機会が、かつてなかった本県では、通訳者が医療の現場に対応できる知識やスキルを磨く

手段がなかったことを残念だと感じ、将来的にも医療通訳養成研修があれば参加したいと望んでいることが分かった。

(3)本研究の 3 年間を通して、在日外国人が多く医療通訳派遣システムが形作られている大都市の課題と、Z 県のように外国人が少なく情報保障としての観点が身近に感じられない地域では、かかえている課題の将来的な改善点が大きく異なるため、地域社会の現状を知り、地域社会のニーズに合わせた段階的な医療通訳の提供と改善が必要であることが本研究で明らかになった。また、これらの根底をなす医療通訳の資格制度の問題や医療通訳のレベル保障に関する問題は、日本全体の問題であり国内のシステムをどの方向に位置づけていくかを見出すことが期待されるとともに、早急に検討すべき課題と考える。

#### 5. 主な発表論文等

[ 雑誌論文 ] ( 計 3 件 )

川内規会、小笠原メリッサ、Z 県在住外国人の医療現場における言語コミュニケーション上の問題点 医療通訳事情改善に関する考察、九州コミュニケーション研究、査読有、11 巻、2013、1 - 18

川内規会、日本における医療通訳の現状と課題 - 外国人診療に関する調査から、九州コミュニケーション研究、査読有、9 巻、2011、25 - 35

川内規会、日本の医療通訳の課題、青森県立保健大学雑誌、査読有、第 12 巻、2011、33 - 40

[ 学会発表 ] ( 計 1 2 件 )

Kie Kawauchi et al.、Communication Anxiety Experienced in Medical Situation

by Foreign Residents Living in Japan, 17<sup>th</sup> World Congress of the International Association of Applied Linguistics、Aug/10-15/2014、(Australia, Brisbane) Brisbane's Convention Center (forthcoming)

Kie Kawauchi、The Need for Medical Interpreters in Japan、Korean Association of Translation Studies International Conference、Oct/18-19/2013、(Korea, Seoul) Hankuk University of Foreign Studies

川内規会 他、医療通訳養成研修から捉える青森県内の通訳者の通訳観、日本ヒューマンケア科学学会第6回学術集会、2013/12/21-22、(青森県青森市)青森県立保健大学

川内規会、研修経験のないボランティア通訳者の医療分野における通訳の壁、日本コミュニケーション学会第14回東北支部研究会、2013/11/30、(山形県山形市)大学コンソーシアムゆうキャンパスやまがた

川内規会 他、医療分野のコミュニケーション傾向とその特殊性 社会が求める医療従事者の態度と期待、2012年度日本コミュニケーション学会東北支部定例研究会、2013/2/16、(宮城県仙台市)仙台青葉カルチャーセンター

川内規会 他、在日外国人の使用言語と医療用語の理解度から捉える医療コミュニケーションの課題 医療通訳の必要性を考える、2013/2/16、2012年度青森県保健医療福祉研究発表会、(青森県青森市)青森県立保健大学

川内規会 他、医療現場における在住外国人の使用言語とコミュニケーションの課題、異文化コミュニケーション学会第7回年次大会、2012/11/10-11、(千葉県柏市)麗澤大学

川内規会 他、在住外国人の使用言語から

捉える医療者とのコミュニケーションの課題 医療通訳の可能性を考えながら、日本コミュニケーション学会第13回東北支部研究大会、2012/10-/20、(青森県青森市)青森アスパム

川内規会、医療現場における在住外国人の言語上のコミュニケーション不安と課題 解決策としての医療通訳の必要性を考える、日本ヒューマン・ケア心理学会第14回大会、2012/7/15-16、(東京都)筑波大学東京キャンパス文京校舎

川内規会 他、在住外国人の医療コミュニケーションの課題 医療通訳の必要性を考える、2011年度青森県保健医療福祉研究発表会、2012/2/18、(青森県青森市)青森県立保健大学

川内規会、外国人診療のコミュニケーションの課題とその解決に向けてー医療通訳のあり方と今後の展望から、異文化コミュニケーション学会第26回年次大会、2011/10/29-30、(兵庫県姫路市)兵庫県立大学

川内規会、医療通訳派遣の現状と課題 地方都市における医療通訳養成の視座から、日本ヒューマンケア科学学会第4回学術集会、2011/10/22、(秋田県秋田市)日本赤十字秋田看護大学

川内規会、医療従事者における外国人患者対応のコミュニケーション不安と今後の課題、日本ヒューマン・ケア心理学会第13回大会、2011/7/23-24、(大阪府大阪市)大阪市立大学

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

川内 規会 (KAWAUCHI Kie)  
青森県立保健大学・健康科学部看護学科・准教授

研究者番号：30315535

(2)研究分担者

オガサワラ メリッサ ( OGASAWARA  
Mellisa )

青森県立保健大学・健康科学部栄養学科・助  
教

研究者番号：60457736

山田 真司 ( YAMADA Masashi )

青森県立保健大学・健康科学部看護学科・教  
授

研究者番号：00200741